



第126回 ドイツの統一

1 ドイツ地域の簡単な歴史

2 ウィーン体制とドイツ

・1814～15年の（ ）の結果、ドイツでは神聖ローマ帝国は復活されず、35の国と4自由市からなる（ ）が成立していた。
→独立国家のゆるやかな連合体であり、事実上は分裂状態が続いていた。

・1817年、（ ）の運動が起こった。
→オーストリア宰相（ ）は、カールスバート決議で弾圧した。

・1834年、経済学者（ ）の提唱で、（ ）が発足した。
→政治的な統一の前段階として、経済的な統一が行われた。
→オーストリアが加わらなかったため、プロイセン中心のドイツ統一へ道を開いた。



フィヒテ



彼らの活動により、ドイツ人としての意識が強まっていた。ドイツという統一国家建設の気運は、すでに高まっていたのである。



オーストリア宰相メッテルニヒ

何度も登場するオーストリア宰相。Mr.ウィーン体制。「ナショナリズムの運動は、絶対に許さへん！」



経済学者リスト

ドイツ人の国の中では関税を撤廃し、ドイツ人以外の国に対しては保護貿易政策をとることを主張した。

3 1848年革命

・1848年2月、フランスで（ ）が起きると、その影響はヨーロッパに伝わっていった。
→オーストリアでは、（ ）でメッテルニヒが失脚した。
→プロイセンでも、（ ）で憲法制定の動きが起こった。



フリードリヒ=ヴィルヘルム4世
びびりのプロイセン王。
「そんな豚の王冠か犬の首輪のようなものいらん！わしを革命に巻き込まないでくれ！」

・1848年、ドイツ統一を目指して（ ）が開かれた。

※（ ）…（ ）中心の統一

（ ）…（ ）中心の統一

→小ドイツ主義が優勢となり、プロイセン王フリードリヒ=ヴィルヘルム4世にドイツ皇帝即位を要請したが、拒否されて挫折した。

4 宰相ビスマルクの登場

- 1861年、() がプロイセン王となった。
→翌年() 出身の() が宰相に任命された。
→ビスマルクは() を推し進め、軍備を拡張した。

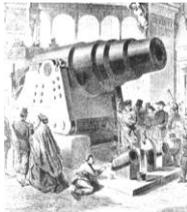
ビスマルク
19世紀最大の政治家である！！

- 1864年、プロイセンとオーストリアは、() を開始した。
→勝利し、デンマークから() と() を奪った。
→しかし領土問題で、プロイセンとオーストリアとの対立が起こった。
- 1866年、プロイセンは、オーストリアとの戦争を開始した。
※これを() という。
→サドヴァの戦いでプロイセンが圧勝し、小ドイツ主義による統一が決定づけられた。
- 1867年、敗れたオーストリアは、帝国内の諸民族を抑えるためマジャール人に自治を与えた。 ※この「妥協」を() という。
→これにより() が成立した。



ヴィルヘルム1世

フリードリヒ=ヴィルヘルム4世の弟。ビスマルクやモルトケを抜擢し、ドイツの統一を果たした。ヴィルヘルム2世は孫にあたる。



クルップ社の大砲

クルップ社の2代目アルフレートは「大砲王」と呼ばれ、プロイセンと結びついて兵器を売りまくった。



オーストリア皇帝フランツ=ヨーゼフ1世

1848年、革命の混乱の際に18歳で即位し、第一次世界大戦中の1916年に死去した。ハプスブルク家の崩壊を見ずに亡くなったことは幸いか。



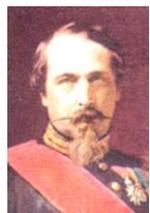
皇妃エリザベート

オーストリア皇帝フランツ=ヨーゼフ1世の妃。ハンガリーを愛し、最後は暗殺された悲運の妃として知られる。

5 ドイツの統一

- 1867年、ドイツ連邦に代わりプロイセン中心の() が成立した。
→しかしプロイセン主導のドイツ統一を嫌い、南ドイツの国々は参加しなかった。

- フランス皇帝() は、となりに強力な統一ドイツが登場することを嫌って、これを阻もうとしていた。
→ビスマルクもフランスとの戦争を計画し、1870年、スペイン王位継承問題とエムス電報事件をきっかけに、() が始まった。
→プロイセン軍は、() でナポレオン3世を捕虜にし、パリに進軍した。
→1871年、ヴェルサイユ宮殿で() がドイツ皇帝に即位し、() が成立した。
→フランスから() と() を獲得した。



フランス皇帝ナポレオン3世

「隣りに強い国ができるのは気に食わん。メキシコの失敗もあるし、ここはプロイセンをしばいて、人気回復だ！」



ナポレオン3世とビスマルク

ナポレオン3世は、これで退位した。この頃のフランスについては、第124回のプリントを見直そう。この後パリ=コムニオンにつながる。



ドイツ帝国の成立

ヴェルサイユ宮殿の鏡の間で、ドイツ皇帝として即位した。あえてフランスで即位したことは、フランスにおける反ドイツ感情が高まる原因となった。